



東武ストア～税務署の歩車道



白旗団地～南町の階段手すり



生浜東小近くの土留め



赤井町の道路、フェンス整備



大森町の道路段差解消



浜野駅タクシー乗り場シェルター



川戸中学前道路の安全対策



大蔵寺小の校庭改良



千葉寺県営住宅の階段補修

京成「大森台駅」のバリアフリー化(エレベーター設置含む)が進みます!

先の議会における公明市議団の代表質問に対し、「エレベーター設置を含む段差解消など大森台駅構内のバリアフリー化の推進について、11月末に実施した協議において、事業主体である京成電鉄株式会社から『R6年度から段差解消の工事を進めていきたい』と伺っている。駅前広場と合わせて、面的・一体的なバリアフリー化の実施に協力していく。」との答弁がありました。

早期の実現に向け、引き続き取組んでまいります。



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声を聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二** | 〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14
Tel.090-2910-3925

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@outlook.jp



さかい通信 2024 新春号



子ども医療費助成・拡充へ!!

関東の政令市
県内自治体で
最高水準

8月1日から

■第4回 定例会で条例改正案が可決

千葉市の子ども医療費助成については、昨年8月より、保険調剤にかかる自己負担額が無料になったほか、受診回数が多い場合や第3子以降の負担額についても無料となりました。加えて、助成対象を高校3年生相当年齢まで拡大することについては、昨年9月の議会において公明市議団の代表質疑で市長が表明しておりました。

第4回定例会では、助成対象拡大に関わる条例改正案が示され可決しました。これにより、本年8月1日より助成対象が中学3年生までから、高校3年生相当年齢まで拡大されるほか、小学4年生以上の通院にかかる保護者負担額が、1回につき500円から300円に引き下げられます。

改正前

助成対象	0歳から小学3年生	小学4年生～中学3年生
	通院1回につき300円	通院1回につき500円
保護者負担	入院1日につき300円	
	調剤 無料	
	第3子以降は無料	
	市民税所得割が課税されていない方は無料	

改正後

助成対象	0歳から高校3年生相当年齢	
	通院1回につき300円	
	入院1日につき300円	
保護者負担	調剤 無料	
	第3子以降は無料	
	市民税所得割が課税されていない方は無料	



「物価高騰への追加策」補正予算が成立!!

※詳細は今後発行される「市政だより」等を参照ください。

生活者向け

価格高騰重点支援給付金(追加給付)

住民税非課税世帯を対象に、給付金を追加支給。1世帯につき7万円。1月下旬(予定)～順次支給。

事業者向け

中小企業者エネルギー価格等高騰対策支援金

事業者へ5万円を給付。1月下旬申請受付開始。令和5年10月～令和6年3月で以下に該当する事業者。

- ①光熱費・燃料費の合計が月3万円以上
- ②原材料費等の合計が3カ月平均で50万円以上



R5年11月 市長に緊急要望を提出

令和5年 第4回定例会 一般質問より

【通告項目】

1. チバニアンについて
2. SDGsと市政について
3. 火災時の被災者支援について
4. 高齢者の暮らしの支援について
5. 人と動物の共生する社会づくりについて
6. 地域公共交通施策について

※この内、4点について以下に報告します。



録画放映は以下のサイトにてご覧になれます。
www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

議員名「酒井伸二」で検索ください!

酒井伸二 検索



酒井伸二 議員

火災時の被災者支援について

—昨年暮れ(2022年12月末)、仁戸名町で9軒が延焼する火災が発生。早朝に連絡を頂き、現場に急行し支援に携わりました。川戸公民館を避難所として開放頂き、地域の自治会関係者の皆さまと被災者のケアにあたることも、その日の夕刻には全世帯分の仮住居(市営住宅)を手配し、(地域の皆さまのご厚意で用意された布団セットとともに)送り出すことができました。



仁戸名町の現場

●(一定規模の)火災被災者支援の充実を

本事案を通して、開館時間外に公民館を避難所として開放するための連絡体制が見直されましたが、今回のようなケースでは、市営住宅への入居時に布団・カーテン・暖房器具等を提供できる仕組みを整備すべきと訴えました。当局からは「関係部署と連携し、どのような支援ができるか検討する」との答弁がありました。実現に向け粘り強く取り組んでまいります。

※被災された皆さまには改めてお見舞い申し上げます。捜査への影響を鑑み、また被災者の暮らしが落ち着かれるまでとは思い、少々時間が空きましたが、経験を教訓にとの思いで取り上げました。

高齢者の暮らしの支援について

●特定健診における認知症チェック「もの忘れチェック事業」の本格実施を

過去の議会質問での提案が実り、昨年10月から始まった事業です。既に1,000名を超える市民の方に簡易検査の受診勧奨案内がなされているとのこと。健診を通じて早期発見・早期予防につながれば画期的であり、本格実施に至るよう取り組んでまいります。



●より身近なところでスマートフォン講座を

コロナ禍を契機に、公民館等でのスマートフォン講座の充実が図られてきましたが、より身近なところでの実施を求めたところ「町内自治会等を対象に出前講座を試行的に実施する予定」との答弁がありました。

●防災ラジオを一般向けに提供を

特別な操作をしなくても、避難指示などの緊急情報が出された際に、自動起動して音声で聞くことができます。自治会、保育施設などに配布されておりますが、高齢者世帯など一般向けに提供するよう求めました。当局からは「各種調査を行っており、普及に向けた施策を検討していく」との答弁がありました。

※この他にも、高齢者が高齢者を介護する「老老介護」の実態が顕著になってきており、その対策強化を訴えるとともに、単身高齢者のための見守りシステム「緊急通報装置」事業の適切な見直しについて取り上げました。

地域公共交通施策について

市内各地で路線バス(10事業者)の減便が顕著です。公共交通は都市の重要な社会インフラであり、その維持・充実のために、市としてより主体的な関わりを求めました。特に、近年全国で取り組みが進むバス

路線	平日	日祝日
10	04:34	04:34
11	04:36	04:36
12	04:24-04:34	04:34
13	04:24	04:34
14	04:24	04:34
15	04:24-04:34	04:34
16	04:34	04:34
17	04:34	04:34
18	04:34	04:34
19	04:34	04:34

各地で路線バスの減便が進む

情報のオープンデータ化は、事業者の負担を軽減すべく初期費用の全額負担を求めました。当局からは「各社の状況に応じた支援策について検討していく」との答弁がありました。

※オープンデータ化により経路検索アプリに路線バス情報が反映されるほか、市としてもダイヤ改正情報の速やかな把握、地域毎の公共交通サービス水準の分析が可能となり、地域の状況に合わせたより効果的・効率的な施策展開につなげることができます。

チバニアンについて



令和2年1月、市原市田淵にある地層が新たな地質年代の境界を最も観察・研究しやすい地層であるとしてGSSPIに指定され、約77万4千年前~12万9千年前の名前が「チバニアン」と呼ばれることになりました。地球史に日本の地名が刻まれることとなった快挙であり、「千葉時代」を意味するこの命名は、「千葉」の名を冠する本市としても大きなニュースと言えます。本市の名前のルーツは「千葉氏」にあり、都市を作った人物と都市の名前が同じであることは、大都市としては珍しいとされてきましたが、それに輪をかけて歴史とロマンを感じる出来事です。

改めて「チバニアン」決定についての本市の受止めと取り組みを伺ったところ、「大変意義深い」「観光事業の『千葉あそび』等で取り上げていく」との答弁でありました。

●「チバ」のルーツを探り、もう一步踏み込んだ活用・連携を!

千葉市域一帯は「万葉集」などから、8世紀前半には「千」の「葉」と書いて「チバ」と呼ばれていたことが分っておりますが、そのルーツは亥鼻山の麓にあった「池田(いかた)の池」に千葉の蓮花が咲いていたとする羽衣伝承などがあるものの、定まっておりません。そこで紐解いたのが、吉野秀夫・元県議会議員の政策提言。県都千葉で観光振興を図るには、物語観光を成立すべしとの視点から、本市に残る歴史的遺構を巡る伝承を活かそうというものです。詳細は割愛しますが、羽衣伝承に登場する「羽衣」「天女」=「オーロラ」ではないかとの説。地磁気の極点が動いてきた地球史の中で、9~14世紀は京都でもオーロラが頻りに観測されております。各古文書にも「池田郷に“赤気”“白気”」の記録。これにより、チバニアン、地磁気、オーロラ、羽衣伝承、県都千葉が繋がります。ちなみに上総の国府があった市原市は、「ちば共創都市圏」のパートナー都市です。

当局からは「チバニアンを圏域の重要な地域資源と捉え、観光や教育、生涯学習をはじめ、様々な分野における連携の可能性について検討していく」との答弁がありました。令和8年度には、現地でガイダンス施設や地層見学施設などがオープン予定であり、継続的にフォローしていきます。

折しも、千葉開府900年(1126年に開府)の900日前カウントダウンが始まっております。質問の最後には「900年の振り返りはもとより、開府した12世紀以前の歴史を紐解くことで、見えてくるロマンや未来があるのでは」と訴えました。



県庁前の羽衣の松